

第1回サイバーポート検討WG（港湾管理分野）議事概要

【議事2（2）意見交換】

（委員）

我々の港では、NACCS と港湾独自システムとの連携により、港湾の手続を電子化している。今般、新たに構築される港湾関連データ連携基盤（港湾管理分野）が、全国の統一のシステムとなるということは、民間の手続申請者は、これまで使っていたシステムとは異なる、全く新しい画面で申請することになるのか。

（委員）

我々の港では、NACCSとも連携し、入港届等のほか、上屋、荷さばき地、岸壁等の使用許可申請手続を電子化し、各種の管理システムとともに、独自のシステムとして独自に構築・運用している。今般の港湾関連データ連携基盤（港湾管理分野）についても、期待するところではあるが、各港湾の既存システムとの円滑な連携が実現するよう、本WGなどで引き続き情報共有、課題整理をお願いしたい。

（委員）

我々の港では、独自のシステムにより港湾の運営を行っている。将来的に、国のシステムと連携する際に、我々の独自の基準とどうリンクさせるかという問題が出てくると思われる。本WGなどで問題点を抽出・克服できればと考えている。

（委員）

規模が小さく、申請件数も少ない港湾では、紙による申請が多くなっている。このため、港湾関連データ連携基盤（港湾管理分野）の導入においては、使いやすさと料金に配慮した形での検討が必要。

（委員）

我々の港では、各開港で NACCS を導入しているが、使用状況にはばらつきがある。今回の新たなシステムの検討にあたっては、使用しやすいものとなるよう、各港湾管理者に調査を行っていただきたい。

【事務局】

今般の港湾関連データ連携基盤（港湾管理分野）の構築により、利用者はこの新しいシステムの画面から手続を行うことになるが、港湾独自システムが存在する場合は、そちらからの申請も従来通り可能とすることで考えている。先行してシステムを導入した港湾が不利益にならないよう、港湾関連データ連携基盤（港湾管理分野）と港湾独自システムとの連携を重視して検討を進めたい。また、利便性については、今後、港湾管理者や手続申請者を対象として調査・ヒアリングを行い、より利用しやすいものを追及していきたい。料金についても、なるべく負担にならないよう検討を進めたい。

(委員)

NACCS や港湾独自システムと連携し、港湾関連データ連携基盤(港湾管理分野)において手続が可能となれば、手続申請者にとって事務の効率化を図るうえで有益と考えている。一方、書類や FAX による申請が定着し特段困っていないという状況も実際にあるため、可能であれば、例えば書類の簡素化や申請から許可に至るまでの時間の短縮など、申請者のみならず許可を行う自治体側にもメリットがあるような形で検討を進めていただきたい。また、費用面について、どの程度負担することになるかが課題になると考えている。

(委員)

ウィズコロナの時代において、こういった電子申請を促進することは、我々としても取り組んでいるので、国のこういった提案はありがたいと思う。一方、費用面が課題になると考えている。また、統計業務については、この働き方改革の時代において、どのように効率化するか、頭を悩ませていたところなので、今後の検討において、調査・統計業務の効率化機能について、具体的にお示しいただきたい。

(委員)

我々の港では、一部の手続は NACCS を利用しているが、やはり大半が紙による申請となっている。作業の効率化の観点や、このコロナの時代において、対面による手続を避ける意味から、手続の電子化は非常に有効と考えているので、是非とも実現してほしいし、協力もさせていただきたい。一方、やはりシステム構築に係る作業や費用負担については、事前の準備も必要なので、なるべく前広に提示いただきたい。

(委員)

我々としても、全体で、DX ということで電子化を進めていこうという方針で動いているので、今般の取組はありがたいと考えている。手続の実態として、やはり一部は NACCS を通じて、それ以外は紙での申請となっており、今般の港湾関連データ連携基盤(港湾管理分野)で電子化を進めていくことについて、今後、協力・連携したい。また今後の実態調査について、それぞれの港湾管理者で手続の内容・項目が異なるので、今般のシステムに手続様式のカスタマイズ機能を備える予定とのことだが、そのように実態にあわせた検討をいただきたい。もう1点、現状の統計作業は非常に煩雑であり、関係者の負担が大きいので、こちらについても今回の連携基盤を通じて、効率のよい統計のとりまとめ手法を構築いただきたい。

【事務局】

費用については、何かしらの負担をいただくことにはなると思うが、なるべく負担を減らすよう努力したい。また、調査・統計業務の効率化機能について、業務の煩雑性の解消そのものだけでなく、統計情報の電子化により様々な分野に活用できるという効果もあるので、その両面からしっかりと検討を進めていきたい。

(委員)

まず、なんといってもシステムの利便性の向上が必要であり、メリットがないと、ユーザーに浸透しない。また、料金の件もある。くれぐれもお願いしたいのは、民間ユーザーの声を十分に調査いただきたい。システム化には様々な声があるので、一つでも多く汲んでいただければ、より良いシステムになろうかと思う。最終的には、紙ベースの手続も、段階的に受付を廃止していく方向でいいのではと考えている。事前の調査を着実に実施していただ

き、スケジュールありきではなく、少しでも良いシステムを構築することが、結果としてサイバーポートの実現への近道になると考えている。

(委員)

民間企業が気にしているのは、やはり NACCS との連携・接続である。ここが関係者にうまく伝わっていないので、今後 WG の検討の中で、手続が NACCS との二度手間にならないよう、既存の NACCS を考慮した今回の連携基盤の立ち位置について、明確にしていきたい。

(委員)

NACCS との重複を避け、NACCS に連動をさせる方向となることを望む。税関など、行政手続に関係する各行政機関との連携をこの機会に是非していただきたい。また、これを機会に、行政機関は大変かと思うが、手続の内容や項目についても見直しに踏み込んでいただきたく、その中で、24 時間の運用や、土日祝日の区別のない運用を期待する声もある。加えて、申請項目には行政罰対象事項等があると思うが、これについては慎重な検討をお願いしたい。料金については、魅力的なものにしていきたいというのが正直なところで、NACCS との二重徴収は回避していただきたい。今後の現場での実態調査に期待している。

(委員)

我が国として電子化を進めていくことは非常に重要だと考えている。NACCS は、我が国の総合物流プラットフォームとして機能しており、官民の幅広い関係者が利用している。最も大切なのは利用者の利便性の向上であり、この港湾管理分野についても、NACCS が対応する部分は NACCS を活用しながら、規模の小さい港湾もあると思うので、必要な部分をこの連携基盤で補完しつつ、全体として電子化を進めることで、更なる貿易・物流の円滑化が進むことを期待する。

(委員)

港湾関連データ連携基盤(港湾管理分野)の構築により、NACCS も更に利用されるようになり、また、港湾全体の利便性が向上すればありがたいので、是非頑張ってください。

(委員)

実態調査の内容をもとにシステムを構築することになるので、実態調査の段階が非常に重要だと考えている。本日ご参加の港湾管理者の皆様や、今後、民間の方にも、是非ご協力のほどお願いしたい。

【事務局】

やはり利便性の向上、料金ということで、特に利便性の向上については、利用者のニーズを、1度限りではなく定期的に把握することで、より良いシステムを構築したい。

(委員)

港湾行政手続の実態把握調査について、資料2の調査内容(案)を見るに、既存の項目を調べることに重心に置いているようだが、今後、幅広くニーズを把握できるよう、調査項目を見直すことが望ましい。また、時系列

として、港湾管理者への調査結果を踏まえてから手続申請者へのヒアリングを行うことになっているが、スケジュールの関係もあるので、手続申請者についても同時に調査し、同様にニーズを把握することが重要。また、統計データの活用については、現場でどのようなデータが必要とされているか等のニーズを把握し、必要に応じてガイドラインや利用規約を整備することで今後の検討を進めていただければと思う。

(座長)

皆さんの方向は同じだと思う。やはり利便性を高く、また安く利用したい、それが皆さんの希望だと思うし、そのために事務局にはしっかりとニーズを把握し、調整するというプロセスが求められる。様々な意見が出ると思うので、まずはニーズを適切に把握いただきたいと思う。